

DOCUMENT Eye series 160

混合交通を観察する

ライダーが着用しているヘルメットの形状と着用状態を観察する
1時間に観察した321台中、ヘルメットのあごひもを正しく締めていないライダー48名

WHY

ライダーはヘルメットを正しく着用しているか?

二輪車(原付・自動二輪)に乗車する際は、頭部を保護するためにヘルメットの着用が義務付けられている。後部座席に乗車するパセンジャーを

含め、多くのライダーが二輪車乗車時にヘルメットを着用している。だが、ヘルメットは「深くかぶる」「あごひもを締める」など、正しい着用をしないと、転倒などで頭部に強い衝撃を受けた場合に、本来

の役目である頭部への保護効果を十分に得ることができない。

ヘルメットには、その形状からフルフェイス型・ジェット型(オープンフェイス型)・ハーフキャップ型・スリークオーター型(耳をカバーするハーフキャップ型)の4つに大別される。

東京都内で車種別・ヘルメットの形状別に、二輪車のライダーおよびパセンジャーのヘルメットの着用状態を観察してみた。

WATCHING

あごひもが緩いケースが多く、なかにはヘルメット非着用も

観察場所は東京都渋谷区の旧環状六号「都立第一高前」交差点付近。渋谷と代官山に近く、ライダーの年齢層も幅広くあった。また、車種についても原付から大型スクーター、大型スポーツバイクと多岐に渡った。

観察日は晴天で、日中の最高気温が30度を超えていたこともあり、夕方でも半袖・グローブなし・ショートパンツ姿・サンダルのライダーが目立っていた。

1時間に観察した二輪車は、原付171台、51cc以上で二人乗り可能なスクーターが62台、スポーツバイクが88台の合計321台。このうち後部座席に同乗者を乗せたタンデムは24台だった。

ヘルメットの着用状況は、ほとんどのライダーがヘルメットを着用していた。だが、「あごひもを締めしていない」「明らかに締め方が緩い」あるいは「あごひもがあごの先端部分にかかっている」など、着用方法に問題のあるライダーが観察された。ヘルメットの形状別では若年層と年配のライダーはハーフキャップ型の使用が多

ヘルメット着用状況

Table with 5 columns: Type, Correct use, Loose chin strap, Not used, Total. Rows include Original, Scooter (51cc+), and Sports Bike.

ヘルメット着用状況(パセンジャー)

Table with 5 columns: Type, Correct use, Loose chin strap, Not used, Total. Rows include Scooter (51cc+) and Sports Bike.

「あごひもの緩み」は観察者の見解



布製の乗馬用と見られるヘルメットを着用するライダー

かった。若い世代の原付ライダーのなかには、帽子をかぶりヘルメットはただ頭に載せているだけという例も見られた。配達など仕事で二輪車を使用しているにもかかわらず、ヘルメットのタイプによらず着用方法が不適切な傾向が見られた。スポーツバイクのライダーはヘルメットのかぶり方、服装を含めてきちんとしている人が多かった。しかし、スポーツバイクなのにハーフキャップ型が35%もいた。

非着用ケースでは、乗馬用と見られるヘルメットを着用しているライダー、バンドナで頭を覆っているだけのライダーもいた。

PROPOSE

同乗者に着用方法を指導する二輪ライダーの責任

タンデムの場合のパセンジャー24名のうち11名はあごひもを正しく締めていなかった。今回の観察はあごひもの締め方を中心に行なったが、ヘルメットのかぶり方そのものは正しいライダーが多かった。

観察の結果、ヘルメットは着用しているものの、あごひもの締め方など、不適切なライダーがあり、特に原付、スクーターやスポーツバイクのパセンジャーにその割合が高かった。ヘルメットは頭部の保護に極めて重要な自分の身の安全を守るための装備だ。ヘルメットを深くかぶり、あごひもをきちんと締めておかないと、転倒時に頭部への衝撃を緩和できないばかりか、ヘルメットが外れることもあることを理解しておく必要がある。また、ハーフキャップ型のヘルメットは、12.5cc以下の原付に限って使用されるものなので、乗車するバイクの排気量にあわせてヘルメットを着用しなければならない。

すべてのライダーにヘルメットの重要性を再認識してほしい。また、タンデムの場合、ライダーは必ず同乗するパセンジャーにもヘルメットの正しい着用方法を指導してほしいものである。